

## 感情カメレオン

青山中学校 3年

あるペットショップに不思議なカメレオンがいた。カメレオンは普通、周りの景色によって体の色を変える。しかしこのカメレオンは周りにいる人間の感情によって色が変わるのだ。周りにいる人間が楽しい気持ちであれば黄色に、悲しければ青色に、怒っていれば赤色に変わる。人間たちは自分たちの感情によってカメレオンの色が変わることを知らない。ただくるくると色が変わるカメレオンを面白がるだけだ。そして人間たちが知らないことはもう一つ。カメレオンが黒色になりたがっていること。地味で、落ち着いていて、注目されない黒色に。

「わあ。また色が変わった」

無邪気な感情にピンク色になってしまった自分の体を見て、カメレオンは思う。感情のない人間はいないのだろうか。そんな人間に飼われれば、黒色になれるのかも知れない。からんと音がし、店の扉が開いて、別の人間が入ってきた。また色が変わるのか、いやになる。すたすたとこっちに来たその人間は見覚えがあった。何回かこのペットショップに来ていた男だ。カメレオンのいる水槽に向かつてくる。と、身体の色がくすんだ濃い青色になった。男はカメレオンをしばらく見て、何か言った。

「すいません。これ買います。」

こうしてカメレオンと飼い主の生活が始まった。

飼い主は、あまり幸せ者とは言えない生活をしていた。金もなさそうだったし、仕事もしていないようだ。なのに、カメレオンのエサやりや水槽の掃除は欠かさなかった。しかしカメレオンにとってそんなことはどうでもよかった。大事なのは、この飼い主はほとんど感情が動かないことだった。だからカメレオンの色は、ほとんど最初会った時と同じくすんだ青色だった。黒色のカメレオンになれるかもしれない。カメレオンは希望を持った。

飼い主は時々カメレオンに話しかけた。カメレオンには人間の言葉は分からない。ただ分かったのは、話しかける直前、カメレオンの体の色が今までで一番黒に近くなり、話しかけた後は

その色より少しだけ明るい色になることだけだった。

ある日、ついにカメレオンの体の色は真っ黒になった。カメレオンは、飼い主に心から感謝した。その日、飼い主はカメレオンに話しかけてきた。体の色が真っ黒になったのはそのすぐ後のことだ。カメレオンは、これからはこの飼い主と一緒に静かに落ち着いて暮らしていこう、と思った。

「やっと黒色になったな。」

最後に何かの役に立てて、良かった。つていうかそのためにおつただけど。飼い主は言う。

「じゃあな。」

自分の願いをかなえてくれた飼い主が、明日からはもういないことをカメレオンは知らない。